

## 園だより 4月

あなたがたは神にあいされている子どもです。(エフェソの信徒への手紙5章1節)

ご入園・ご進級おめでとうございます。

花冷えの日々が続いております。満開の園庭の桜、プランターのチューリップたちは、子どもたちと会える日まで頑張ってお咲いていたいと願っているかのように私には感じられます。そんな穏やかな春の園庭を眺めながら、保育者たちは新年度の備えの時を過ごしてきました。これから出会う年少児・年中児たちに思いを馳せながら、昨年度の様子を思いながら今年度の年中児・年長児の活躍を楽しみに。保育者それぞれの立場から子どもたちに心を寄せ、準備をし、すでに2019年度がスタートしております。

さて、ご家庭ではどのような想いを膨らませながら、新年度をお迎えでしょうか。学年が上がることに、幼稚園という小さな社会へのスタートに、我が子は大丈夫かしらと心配されておられますでしょうか。親心という愛情たっぷりの心配は尽きないと思います。が、どうぞ新年度をスタートした目の前の子どもたちを改めてみてください。子どもたちには「生きる力」「伸びゆく力」がちゃんと備えられていることがお分り頂けるのではと思います。その力を信頼し、子どもたちがその自らの力を十分に発揮し、幼稚園生活がどの子どもたちにとっても「いのちを輝かせる日々」となるよう、教職員一同それぞれの立場から、心をかけ、想いに寄り添い、支え、子どもたち一人ひとりの成長を見守って参ります。「遊びの生活」が始まります。その遊びの中で子どもたちはどれほどに学び、想いを巡らせ、体を動かし、様々な育みが成されることでしょうか。保育者はその為にすべての環境を整え、想いを注ぎます。

「主体的に生きる」このテーマは幼稚園生活で完結するテーマではありません。幼稚園生活はそのスタートの時であると考えます。それぞれに神様から頂いた「いのち輝くとき」を主体的に生きるため、幼稚園生活はしっかりとした「土台を育むとき」として大切に過ごして参りたいと願います。さあ、心新たにスタートです。今年度もご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

—神様のゆるぎない御手に支えられつつ—

園長 駿河 幸子